

大阪情報コンピュータ専門学校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に即し実施した「令和4年度自己評価報告書」に基づき、7名の評価委員に評価を頂いた。

事前に「令和5年度自己評価報告書」「学校情報」を配布した上、学校関係者評価委員会では、評価項目に沿って、ご意見を頂戴した。

1. 日 時：2024年7月9日（火） 15：00～17：00

2. 場 所：6-D 教室

3. 参加者：7名

(1) 学校の専門分野における業界関係者

篠木 聡 株式会社ウイズ・ソフトウェア 代表取締役

(情報処理学科、IT テクニカル学科、情報システム開発学科、総合情報メディア学科)

上山 孝 Pro-X 株式会社 代表取締役社長

(情報処理学科、IT テクニカル学科、情報システム開発学科、総合情報メディア学科)

長尾 和昭 株式会社 COMET DESIGN WORKS 代表取締役

(メディアデザイン学、ゲーム学科、メディアクリエイト学科、総合情報メディア学科)

山田 成彦 株式会社タニスタ 代表取締役

(メディアデザイン学科、メディアクリエイト学科、総合情報メディア学科)

広末 貢一郎 株式会社エアポートカーゴサービス 関西業務部 次長

(IT ビジネス学科)

(2) 保護者

田中 知子

(3) 卒業生 (株式会社ナック代表取締役)

野口 幸雄

(4) 接続する学校の関係者 (科学技術学園高校 大阪副分室長)

福井 武彦

4. 委員会議事内容

項目	評価・意見
(1) 教育理念・目標	教育目標達成に向けて、情報デザイン教育を一層発展させて欲しい。
(2) 学校運営	・特に問題はない

<p>(3) 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生成 AI の技術について、企業は生産性の向上やコストの削減などメリットが大きいため積極的に活用している。教育活動において、学習の効率化や創造性の向上に役立つツールであると考え。しかし、便利さの反面、利用にあたっては問題点も多い。それについて、どのように教育指導しているのか。 ・技術の進歩が速く CG や映像分野はメタバースがメインになってる。教育内容について、新たな技術のキャッチアップに対する方針はあるのか。 ・企業が求める人材像は、特定の技術を持っているだけでなく人間力を含めた「総合的な力」を持った学生である。就職後の成長と就業の継続には必須の能力であると考え。技術の習得とともに人間力を高めるために、教育活動の全場面で企業側のニーズを意識した人材育成を行って欲しい。 ・IT 関連の企業においては、社員に対し基本情報技術者試験の取得するよう取り組んでいるが、動機づけが難しい。学校では学生に対し資格試験をどのように位置づけ、取得させる指導をしているのか。
<p>(4) 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・IT 系分野において、基本情報技術者試験の取得率目標を大きく上回り達成したことは、評価できる。 ・デザイン系分野において、学内だけでなく学外のコンテストなどへ他数の出展、受賞をしており、特に「第 12 回全国専門学校ゲームコンペティション企画部門」においてファイナリストに選出された成果は大きい。 ・学生にとって、学んだことをアウトプットする機会が日常的にあることは重要だ。学内作品展メディアフロンティアなどは絶好の機会だが、学外に出て第三者に対し発表することや社会貢献につなげるなどの経験を頻繁にすることで、学生の実践力や自信につながるだろう。
<p>(5) 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以降、学びの方法も登校だけでなくオンラインなど選択可能な場合が多い。そうした変化に学校としてどのように対応しているのか。 ・学生の意識や特性の多様化していると推測するが、中途退学者の低減に向けたような対策を行っているか。 ・企業側から見た時、OIC の就職支援は他校に比べても非常に手厚いと感じる。要求性を高めれば、さらに就職先のミスマッチがないような支援をさらに充実させて欲しいと考える。
<p>(6) 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が日々進歩する技術をキャッチアップするためには、教育内容だけでなく、技術の高度化に対応した教育環境の整備が重要である。 ・外壁リノベーション工事によって学校の外観が先進的なイメージに刷新された。学生とともに成長を続ける学校であるということを内外に印象付けることが望ましい。
<p>(7) 学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なく、適正に行われている。

(8) 財務	・2023年度は外壁リノベーション工事、及び全熱交換式換気装置の設置など、教育環境の整備・充実に大きな投資を行った。これは中長期的な学校の財務基盤が安定していることのあらわれと評価できる。
(9) 法令等の遵守	・特に問題なく、遵守されている。
(10) 社会貢献・地域貢献	・昨今リスキリング、リカレント教育のニーズが高まる中で、ITテクニカル学科の各コースが厚生労働大臣の指定により専門実践教育訓練における給付金制度の対象となったことの意義は大きい。引き続き学校の社会的価値を高めて欲しい。
(11) 国際交流	<p>・留学生の適切な受け入れと学内での日常的な交流を通じ、多様な価値観や発想、文化等に触れる機会を持つことができる。また、学校の活性化にもつながるだろう。</p> <p>・留学生が卒業後も引き続き日本で就職し、活躍することにより、国際的に開かれた活力ある社会の実現が期待できるだろう。</p>

5. 委員からの質問に対する回答

1) 教育活動について

・委員からのご意見や昨今の生成AIの急速な利用拡大を踏まえ、本校での教育活動における生成AIに対する取り扱いや活用について指針等の策定し、授業や教育活動への展開を進めている。

・メタバースなど、最新の技術をカリキュラム等に即反映させているわけではないが、技術の進展に対応した高度な作品制作が可能なハイエンドPC実習室(メディアラボ)を導入し運用を開始した。学生は、演習や各種作品コンテストへの出展に向けハイエンドPC実習室(メディアラボ)を積極的に利用することで学習上の成果につなげている。

・基本情報技術者試験の取得をスキル(技能)修得に向けた指標の一つとし、引き続き取得率向上のための授業改善に取り組む。また、プログラミングスキルを高め、実践における問題解決能力を育成するため、学内においてTechFULプログラミングコンテストを継続実施することとした。

2) 学生支援について

・コロナ禍以降の多様な学び方への対応について、「課題解決型授業」をより効果的に実施すると同時に、学修管理システム(LMS)等を積極的に活用し、学生の学びへの意欲の醸成と教育効果を高める。

・中途退学者の低減に向けた対策として、学びや職種に対する意識付けを行うとともに、クラスを中心とした学生生活支援の強化、担任制による個別指導や相談体制づくりを行っている。また、中途退学防止に向けた窓口を増やすことで安心して学業を継続できる環境を一層精緻化することとした。

6. 委員からの評価・意見に対する活用状況

- ・社会・産業ニーズに即応する質の高い職業教育を発展させるため、産学連携の一環として企業課題への取り組みを全教育分野において豊富化する。
- ・学校の仕組みとして学生の人間力を高め、成長を促すことが重要であるという意見を踏まえ、授業内のグループ制作や各種学校行事、クラブ活動などの課外活動に関わる機会を増やし、学生が主体的に取り組むことで人間的な成長を促すこととした。
- ・学内における留学生と一般学生との交流を促進し、学生の多様な価値観や発想、文化等に触れる機会を持つことで、相互理解を深めるとともに学生の人間的成長や学校生活の活性化につなげる。また、18歳人口のさらなる減少に備え、留学生を含む多様な学生の受入れと、それに対応する教育の質の維持向上について議論を開始することとした。

以 上